

調布市視察に関する質問事項と回答

第5回西東京市  
放課後子供教室  
あり方検討委員会  
令和7年10月27日

資料1

	質問事項	メモ
①	いまの状況に至るまでにどのような困難があったか。 また、現状直面している困難などはあるか。	スペースと人数の問題。参加者が多く1教室では限界を感じている。また、従事者の事務室もないため、従事者の働き方にも課題がある。 現在貸与されているのは基本的にはプレイルーム1部屋のみ、学校によってはタイムシェアとなっている。学校都合による引っ越しもある。
②	学童クラブと放課後子供教室を同じ事業所に委託しているとのことであるが、どのようにすみ分け・運用をおこなっているのか。	連絡系統が統一されており、その地域においては同じ法人にて委託をしているため、その事業所の本部とだけやり取りをすれば地域全体に伝達することができる。なお、調布市は5つの法人に委託している。同一学区内で同じ法人に事業委託を実施することで、学校からの連絡も1つのみで済む。
③	放課後子供教室の認知度を高めるために、どのような手段・方法をとっているのか。	小学校の入学説明会で放課後事業の説明を行っている。毎月おたよりも出している。 保育園の年長を対象とした体験会を実施している（保育園に説明に行くこともある） あそびバの合同展覧会を実施し地域の方などに来ていただく。
④	あそびバ（放課後子供教室事業）をなぜ教育部局ではなく市長部局にしたのか。	広報がしやすい。他の事業（学童など）の弱点を補完しやすい。トータルコーディネートがしやすい。 緊急時の判断であったり、予算建ての面でも市長部局にあるほうが早く動けるため。 ただし、教育委員会ではないことで施設使用の優先順位が下がるように思う。
⑤	原則3人となっているが、50人ほど参加があった場合、3人で見守りをできているか。	平均して50名ほどの参加があり、なかなか厳しい状況でもある。 ※視察日は校庭に20名ほど、室内に15名ほど参加しており、職員が外に2名、室内に2名で対応していた。
⑥	特別支援学級の児童が参加する場合は4名体制であるとなっているが、特別支援学級からの参加は何人ぐらいいるのか。	1日あたり2名ほど参加している。ただし、特別な支援を要する子に関しては目が離せないため、人員体制に課題があると感じている。
⑦	地域の方の関りはあるか、それとも完全委託なのか。 また、関りがある場合はどのような関り方をしているのか。	基本的には完全委託である。 放課後子供教室事業はもともと地域の参画によって地域とつながる目的があることは理解しているが、「自由に遊ぶ」という子どもの権利に主眼をおき事業を実施している。
⑧	各学校でどのくらいの広さ（校庭、体育館、空き教室等）を放課後子供教室のために確保しているのか。	完全に確保しているのは各学校プレイルームの一部のみ。 遊ぶ場としては主にプレイルームもしくは校庭となっている。
⑨	放課後子供教室に参加している児童の、学年による授業終了時間の差をどのように対処しているのか。	プレイルームは常に空いているため、毎日ランドセル来所は可となっている。 事業実施者としては学年ごとに来所に時間差がある方が対応しやすい。 イベント実施の際の開催時間の設定が難しいと感じる。
⑩	放課後子供教室に参加中の児童がケガをした場合どのように対応しているか。	ケガ対応については民間委託会社の職員が対応する。 #7119を利用し対応することもある。
⑪	調布市の児童館及び学童クラブの数を教えていただきたい。	児童館数11館…学年を越えて、学区域を越えて、自由に来て自由に帰る 学童クラブ49カ所…健全育成に主眼をおいており、生活習慣を整える目的もある。育成料が必要。 おやつあり。
⑫	児童館の数はHPで11館と確認しましたが、児童館と放課後子ども教室の住みわけが進んでいる感じがあるのか、それとも両方に登録して日によってどちらにも参加している子がいるのかお伺いしたい。	自由に行き来できるが、固定傾向であると把握している。 (子どもの好みによる)
⑬	放課後子供教室が人気があるのはやはりランドセルを持ったまま参加できるという点であると考えられるか。このほか、満足度調査のようなものをおこなったことはあるか。	ランドセルを持ったまま参加できるという点が大きい。 満足度調査については保護者アンケート等を実施している。